資料１

１「千葉市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画」の進捗状況について

＜計画値の達成状況＞

計画では、令和１３年度を目標年次として達成すべき５つの具体的な数値目標を掲げています。

平成３０年度は、５つの数値目標のうち、総排出量・焼却処理量・最終処分量は計画値を達成しましたが、再生利用率・温室効果ガス排出量は計画値に達しませんでした。

表１：計画値と実績値の比較

	平成３０年度			令和１３年度（目標年度）
	計画値	実績値	達成状況	
総排出量 [1] (t)	368,596	352,981	○	354,000
焼却処理量 (t)	242,064	240,742	○	235,000
再生利用率 [2] (%)	35.3	33.4	×	38.0
最終処分量 [3] (t)	22,321	20,055	○	13,000
温室効果ガス排出量 (t)	81,585	100,725	×	78,000

[1] 総排出量：以下の①、②、③の合計
①家庭系ごみ（可燃ごみ、不燃ごみ、有害ごみ、資源物（びん、缶、ペットボトル、古紙、布類、生ごみ、剪定枝等）、粗大ごみ）
②事業系ごみ（可燃ごみ、不燃ごみ、事業系資源物（びん、缶、金属等、古紙・布類、厨芥類など）
③集団回収、古紙回収庫、使用済小型家電拠点回収、廃食油資源回収、その他の拠点回収

[2] 再生利用率：ごみの総排出量に対する再生利用量の割合（再生利用率＝再生利用量／総排出量×１００）
※再生利用量：家庭系資源物、集団回収、古紙回収庫、使用済小型家電拠点回収、廃食油資源回収、その他の拠点回収、事業系資源物、不燃ごみ・粗大ごみの破砕後資源化量、有害ごみ・焼却灰等再資源化量の合計

[3] 最終処分量：埋立焼却灰量と直接埋立量（破砕残さ量を含む）の合計

ア　総排出量

平成３０年度の総排出量は 352,981t となり、前年度と比べて 1,878t（0.5%）増加しましたが、計画目標値を達成しました。

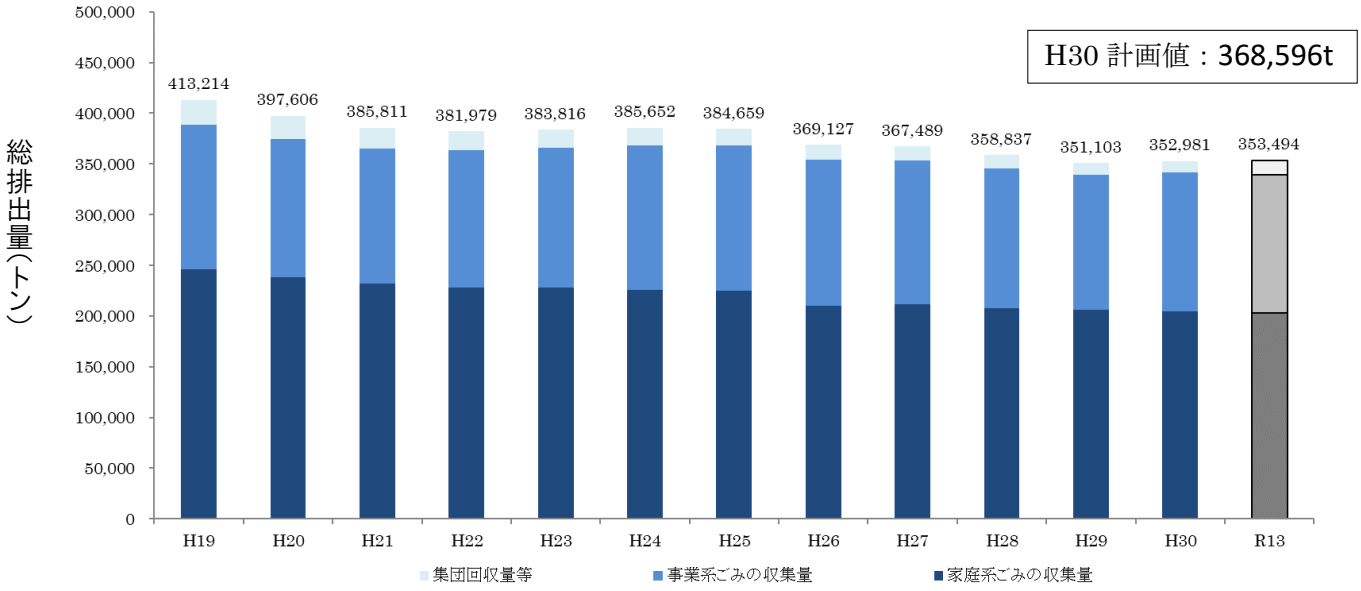

図１　ごみの総排出量の推移

【分析結果】
① 家庭系ごみ
　　計画：176,277 トン→実績：171,656 トン（▲4,621 トン）
② 事業系ごみ
　　計画：　74,321 トン→実績：　74,221 トン（▲100 トン）
③ 家庭系資源物
　　計画：　50,516 トン→実績：　43,630 トン（▲6,886 トン）
④ 事業系資源物
　　計画：　67,482 トン→実績：　63,474 トン（▲4,008 トン）

【主な要因】
・家庭系可燃ごみ収集量の減少（▲5,077 トン）
・事業系可燃ごみ収集量の減少（▲97 トン）
・家庭系古紙・布類の集団回収量の減少（▲3,257 トン）
・事業系古紙回収量の減少など

イ　焼却処理量

平成３０年度の焼却処理量は 240, 742t となり、前年度と比べて 2, 983t（1. 2%）減少し、計画目標値を達成しました。

このうち、家庭から排出される焼却ごみの量は 166, 535t（前年度比 2, 740t（1. 6%）減）に、事業所から出される焼却ごみの量 74, 207t（前年度比 243t（0. 3%）減）となりました。

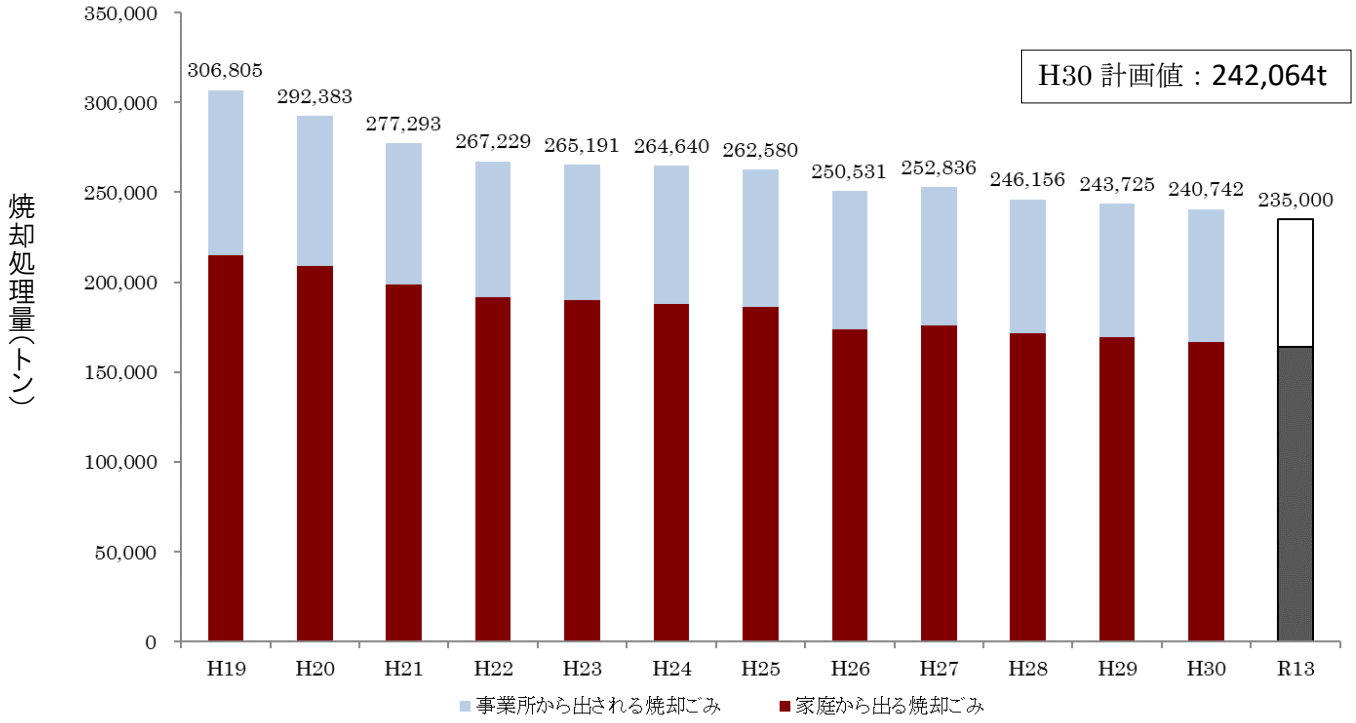

図２　焼却ごみの量の推移

【分析結果】
① 家庭から排出される焼却ごみ量
　　計画：167, 761 トン→実績：166, 535 トン（▲1, 226 トン）
② 事業所から排出される焼却ごみ量
　　計画：　74, 304 トン→実績：　74, 207 トン（▲97 トン）

【主な要因】
・剪定枝等再資源化事業による削減効果（＋1, 192 トン）
・ごみ削減普及啓発による効果など

ウ　再生利用率

平成３０年度の資源物の再資源化量は 95,737t でした。

このうち、家庭から出された資源物（集団回収等を除く）の再資源化量は 32,264t となり、前年度と比べて 1,055t（3.4%）増加しました。

また、事業所から出された資源物の再資源化量は 63,474t となり、前年度と比べて 4,619t（7.8%）増加しました。

集団回収等や焼却灰の再資源化等を含めた最終的な再生利用量は 117,901t で、このことから再生利用率は 33.4%となり、前年度と比べて 0.8%増加しましたが、計画値である 35.3%に達しませんでした。

図３　再生利用量、再生利用率の推移

【分析結果】
・家庭系資源物再資源化量（集団回収を除く）
　計画：　36,217 トン→実績：　32,264 トン（▲3,953 トン）
・事業系資源物再資源化量
　計画：　67,482 トン→実績：　63,474 トン（▲4,008 トン）
【主な要因】
・家庭系古紙・布類の収集量の減少（▲1,947 トン）
・事業系古紙・布類の再資源化量の減少など

エ　最終処分量

平成３０年度の最終処分量は民間施設での不燃残渣の再資源化量が減少した影響等から 20,055t となり、前年度と比べて 316t（1.6%）増加しましたが、計画目標値を達成しました。

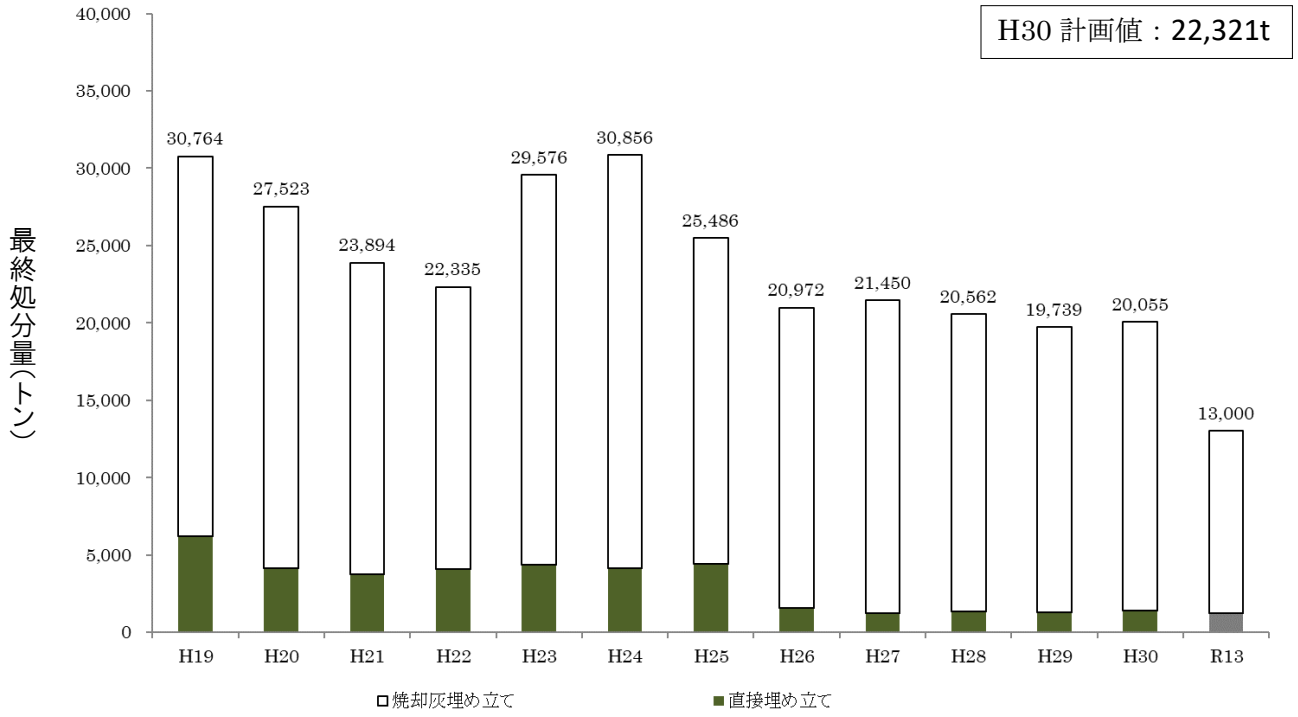

図４　最終処分量の推移

【分析結果】
① 焼却灰発生率
　　計画：10.8%→実績（北清掃工場）：7.3%
② 焼却灰埋立量
　　計画：21,066 トン→実績：18,679 トン（▲2,387 トン）

【主な要因】
・焼却灰発生率が推計値よりも低い
・焼却処理量の減少により焼却灰量が減少

オ　温室効果ガス排出量

平成３０年度の温室効果ガス排出量は焼却ごみの組成変化や売電･熱供給に伴う間接削減量が減少した影響等から 100,725t となり、前年度と比べて 10,587ｔ（11.7%）増加し、計画値の 81,585ｔに達しませんでした。

表２：温室効果ガス排出量の内訳

（単位：トン）

	清掃工場稼働に伴う発生量（A）	廃棄物の焼却に伴う発生量（B）	売電、熱供給に伴う間接削減量（C）	合計（A＋B－C）
計画	※	※	※	81,585
実績	3,208	117,431	19,914	100,725
実績－計画				19,140

※計画値は、全体の排出量のみ計上しています。

【分析結果】
・焼却ごみの組成の変化

【主な要因】
・計画策定時に比べプラスチック類の組成割合が上昇
（H27：28.5%→H30：31.1%（＋2.6%））
・新港清掃工場のスーパーごみ発電廃止及び民間企業への蒸気供給停止の影響により、間接削減量が減少